

ITを活用し、規格外の鮮魚の流通に成功した中小企業

大阪府吹田市の株式会社旬材(従業員26名、資本金4,400万円)は、IT(情報技術)を活用し、規格外の魚や特定の地域の希少な魚を取引する仕組みを構築した中小企業であり、漁業の活性化にも貢献している。

同社は、通常市場での大量取引には向かない規格外の鮮魚や特定の地域でしかとれない希少な鮮魚の情報や映像をインターネットを通じてウェブサイト上で提供し、オンラインで魚を供給する漁業者と卸売業者等の魚を購入する者をマッチングし、売買の決済もできる、電子商取引のシステムを提供している。漁業者にとっては、価格決定権を持つことができるため、通常より高い価格での販売が可能となる。他方、卸売業者、小売業者等の購入者にとっては、希少な鮮魚を入手でき、通常の流通よりも安価で仕入れることが可能となり、他の卸売業者や小売業者との差別化を図ることもできる。

現在では、全国46の漁協、卸売業者が同システムに参加しており、海外からの関心も集まってきている。「オンラインで鮮魚の売買を決める同システムを通じて、日本の鮮魚が世界中どこにでも輸出される日が来るのもそう遠くはない」と、同社の西川益通社長は期待する。



鮮魚「メンメ(キンキ)と八角」